

拝啓

今年は梅雨の雨が多いように感じますが、皆様お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、ねむの木の花が、淡いピンクの花びらを咲かせています。皇后陛下が作詞された「ねむの木の子守唄」という名曲があるのを御存じでしょうか。

今月は、小西先生の『ローマ人への手紙講解説教』の第2回目です。先月号について、感銘を受けたと感想を述べて下さった方が、数名いらっしゃいました。6月24日の今井館の高円寺東集会では、小西先生の昭和37年12月23日クリスマスの説教「ロマ書大観」と題する説教の録音テープを聞きました。小西先生が筆で大きく書かれた図を壁に貼って、それを指しながらの説教でした。本誌読者の佐生健光さんに書き写して頂いたペーパーがありますので、お許しを得てそれを添付いたします。十字架の贖いは奥義であること、称名の意味、信望愛の意味・関係など、私には、この絵が小西先生の教えのすべて、またキリスト教の大事なことのほとんどを現わしているように思えます。また、世界宗教の一般的な構造も示しているように思えます。小西先生を通して、パウロ先生から直接教えて頂けるということは、素晴らしいことだと思います。

6月16日(土)の午後、信濃町教会の集会室をお借りして、第1回の思い出の童謡唱歌の会を開きました。40名ほどの人が参加して下さい、皆さん大そう喜んでいただけました。特に、前の会から熱心なメンバーで、眼底の病気で失明された山形さんという方がおられますが、「ペタコ」と言う歌がお好きで、それを特に一緒に歌ってさしあげたら、「涙が出た」と喜んでくださいました。山形さんは、童謡・唱歌の会が生きがいとおっしゃってくださいますが、その方お一人に喜んで頂けるだけでも、会を始めた甲斐があります。始めるまで苦労もありましたが、「万事が益となる」(ロマ書8章28節)でした。本誌読者の皆様も、よろしかったらどうぞ。この次は、9月15日(土)午後です。

南原繁先生の伝記(題は『南原繁の生涯 信仰・思想・業績』)の初校は終わりましたが、岩波書店のOBの岡本さんと、東大出版会の竹中さんが校正を手伝って下さいましたが、さすがプロの方ですから、私が見落とししたこともいくつも見つけて下さり、感謝でした。

これから暑い時期に向かいますが、どうぞ皆様もお体ご自愛ください。

敬具

平成24年6月25日

山口周三

エンカウンターの読者各位